

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座・教授
氏名 Name	中川 裕之
専門分野 Academic Field	ドイツ語学/言語学, 外国語教育, 地域研究

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ドイツ、スイス、オーストリア、ハンガリー、ポーランドにおける言語共同体と移民・外国人をめぐるドイツ語ディスコース研究
<p>平成 25～29 年度にかけて採択実績を重ねている研究推進経費による研究成果刊行助成に本年度も応募し幸い採択されたので、引き続きこれを統括推進し、研究プロジェクト報告書『ドイツ語をめぐる言語社会研究』第 6 号として、平成 31 年 3 月末に刊行することができた。これは、箕面の言語文化研究科言語社会専攻と豊中の言語文化専攻の両ドイツ語部会に所属する専任教員を中心として編成されたチームによる研究論文集であるとともに、学内横断的に、柔軟かつ機動的に進めているユニークで重要な試みの一つである。本研究プロジェクトの対象地域は主としてドイツ語圏であるが、これにとどまることなく、ドイツ語との二言語併用地域もしくは多言語地域、さらには歴史上関連のある隣接地域まで視野に収めているという点で、分野横断的でもある。われわれが今年度刊行した本論文集は、スイス、ルクセンブルクに関する言語・教育状況を論じた論文や翻訳、海外の学会報告などから構成されている。われわれのこの試みは、ドイツ語のような言語と比較・対照しながら、同時にマイノリティ言語・文化・文学・地域社会研究にも貢献できるものであると考える。今号では新たな試みとして、本学大学院博士後期課程在籍中のスイス人からのスイス・ドイツ語に関する寄稿も含まれるため、従来にも増して充実した内容になっている。このように本学の特性を活かしながら、国内外の関連する言語研究者たちとの議論や意見交換、研究発表をつみ重ねることによって、相互理解を深め、共生可能な社会の実現を目指す言語文化論の構築に努めることができたように思われる。今後は、ドイツ、スイス、ルクセンブルクにとどまらず、オーストリア、イタリア、ハンガリー、ポーランドなどの言語共同体にも学術的にアプローチし、各言語資料を収集し、移民や難民、外国人をめぐるドイツ語ディスコース・コーパス) を活用した社会言語学的実証研究と、通時的文献学的研究をさらに推進したいと考えている。</p>	